

# オオサキワンダーミュージアム

## 人と大自然の青空博物館

vol.37

世界農業遺産ブランド認証に米・野菜・大豆の加工品が加わりました

農政企画課世界農業遺産未来戦略室 ☎23-2281

大崎地域世界農業遺産推進協議会では、世界農業遺産ブランド認証を通して、「大崎耕土」で生産された農産物や加工品のブランド化を図っています。

今年度からは、新たな認証品目として「加工品(米・野菜)」と「加工品(大豆)」を加え、申請の受け付けを開始しました。「大崎耕土」で大事に育て、生産されたブランド認証品は、認証品ロゴマークが目印ですので、直売所などで探してみてください。

### 【認証要件】

・「加工品(米・野菜)」

認証を受けた「米」または「野菜」を主原料とする地域内で製造された加工品

・「加工品(大豆)」

世界農業遺産への理解を深める講座を受講し、県内産大豆を主原料とする地域内で製造された加工品  
※各認証品目の認証申請は、ウェブサイトで確認してください。

大崎耕土ウェブサイトはこちら▶



▲ロゴマーク



# 大崎さんの食育コラム

その24(最終回)

5月5日はこどもの日!



農政企画課世界農業遺産未来戦略室 ☎23-2281

こどもの日は、子どもたちがみんな元気に育ち、大きくなったことをお祝いする日。端午(たんご)の節句とも呼ばれていて、元々は病気や災いなどの悪いことを避けるための行事だったんだ。

味が込められているよ。たけのご飯や汁物で食べるとおいしいよね。そのほかに、彩りが良いちらし寿司は、エビやレンコン、いくらなどの縁起が良い食材が使われているね。

こどもの日の由来や行事食の意味に触れながら家族と楽しく過ごしてね!  
今回でパタ崎さんの食育コラムは終わりだよ。これからも食を通じて健康で心豊かに暮らしてね!

# 大崎市公式SNSリニューアル!

5月下旬から、市公式Twitter・Facebookは、行政情報だけでなく、観光やイベント情報も盛り込み、充実した情報をお届けします。二次元コードから、登録をお願いします。



図書館の情報を発信▶



Twitter

男女共同参画相談室 With おおさきの情報を発信▶



Facebook



Instagram



秘書広報課広報広聴担当 ☎23-5023

# 今月の表紙

4月11日、大崎市立古川西小中学校で入学式が行われました。

古川西小中学校は、古川西部地区の志田小学校・西古川小学校・東大崎小学校・高倉小学校の4つの小学校と古川西中学校を統合し、市内初となる義務教育学校として、この春に開校しました。

ピカピカの大きなランドセルを背負って、新しい校舎へと向かう新入生の表情は、期待に胸を膨らませ、笑顔でいっぱいでした。

新入生は、上級生の8、9年生に手を引かれながら、吹奏楽部の演奏に合わせて元気いっぱいに入場しました。先生から名前を呼ばれると、手を挙げ、会場に響き渡るほどの大きな声で返事をしていました。

新たなスタートを切った古川西小中学校。遊びに、勉強に、新しい校舎での学校生活が楽しみですね。

◀教科書・入学祝品が授与されました



広報おおさき5月号 2023 No.206

## Main Contents 目次

- 04 5月8日(月)新庁舎がオープンします
- 06 新しい行政区長を紹介します
- 08 CITY TOPICS
- 10 大崎市職員募集
- 11 OSAKI Culture
- 12 オオサキプレイガイド
- 14 新型コロナウイルスワクチン接種情報
- 15 暮らしの情報  
ゴールデンウィーク期間中のマイナンバーカードに関する手続きについてほか
- 24 子育て支援情報 ほか
- 26 相談コーナー
- 27 休日救急当番医 ほか
- 28 Main Dish

# 市長コラム

## ササニシキ誕生60周年

大崎耕土が田植えの時期を迎えました。日本の稲作は、今から三千年ほど前に中国大陸を経由して渡来し、日本は瑞穂の国といわれ、米は日本人の主食となり、稲作は日本文化の形成や政治経済において重要な役割を果たしてきました。

しかし、熱帯原産である稲が、寒冷地である東北地方において定着するまでには、長い苦難の道のりがありました。篤農家や稲作研究者による品種改良、技術改善の努力の歴史です。

現在、日本で栽培されている稲の品種は、300品種以上あり、毎年10、20の新しい品種が誕生していますが、品種の現役寿命はおよそ13、15年といわれています。

その中で「ササニシキ」が新品種としてデビューしたのは、1963年(昭和38年)です。二毛作時代から単作多収

時代へ、多収から良質米時代へと米を巡る時代の流れが変わり、他品種が失速していく中で「ササニシキ」は、時代の荒波を乗り越え、「東の横綱」「お米の女王」と称され、60年間にわたって現役で頑張り続け、東北の米作りを支えてきた、まれにみる長寿の品種であります。

古川駅前には「ササニシキ」への畏敬と感謝を込めてササニシキ顕彰碑(少年と母親の像)が建立されております。大崎市では、「ささ王」決定戦を開催して、ササニシキ系銘柄を高める取り組みを展開しております。

人間でいえば還暦を迎えた偉大なブランド米「ササニシキ」の誕生と歩み、貢献に感謝し、新時代を切り拓かれることを期待しております。



大崎市長 伊藤康志